

## 基礎編第4章 追加

### 3 加齢変化

歯周組織の加齢変化の大きな特徴は細胞成分の減少である。歯周組織を構成している各組織の加齢変化を次に示す。

#### ① 歯肉

歯肉上皮細胞の数は減少して上皮層は菲薄化し、角化の程度も低下する。上皮下の固有層である結合組織には線維芽細胞の数の減少があり、相対的に線維成分は増加する。線維芽細胞が減少してコラーゲンの増生が低下するのに線維成分が増加するのは相反するが、これは合成されたコラーゲンの成熟率の低下によるといわれている。

#### ② 歯根膜

歯根膜腔は狭窄し、線維芽細胞やマラッセの上皮遺残などの細胞成分は減少し、歯根膜線維の硝子化および石灰化がみられる。

#### ③ セメント質

セメント質には原生セメント質（無細胞性セメント質）と第二セメント質（細胞性セメント質）があり、加齢に伴って増加するのは第二セメント質であり、根尖側1/3と根分岐部にセメント質肥厚がみられる。

#### ④ 歯槽骨

骨芽細胞の減少や骨形成の低下が起こり、骨量が減少し、骨髓腔やハバース管腔は拡大して骨多孔症となる。

### 参考文献

下野正基 著：加齢と歯周組織. 老年歯医. 4：08-112, 1990.